皆さん、怒ってますか～？女の価値を産む産まないで決めるな！と大きな怒りの声が上がってます。なぜか？ 私達は子供の頃からずっと「女の子はいつか赤ちゃんを産むんだから」「あなたもいつかお母さんになるんだから」と勝手に決めつけられてきた。女は子供を産むべき、子供を産んで一人前、女の幸せは結婚出産、独身で仕事ばっかりして可哀想、好き勝手に生きてワガママだ、子供産まないでどうするの老後が寂しいよ、とか… やかましわ！！産む産まないは私が決める！私の幸せは私が決める！他の誰かに、ましてや国家に決められてたまるかよ！ 私たちはそんな抑圧にずっと苦しんできた、その苦しみを若い女の子たち、これからの女の子たちに引き継ぎたくない、だから怒ってるんです。

私の両親の話をします。母は23歳で専業主婦になり、40歳の時に夫から離婚されて、アルコール依存症と拒食症、自傷行為を繰り返すようになりました。 中学生の私は「お母さん、自分の足で立ってよ」「なんで私が親の世話をしなきゃいけないの」と思ってました。その母は50代のときに遺体で発見されました。 母の部屋は壁一面に20代のギャルが着るような服がかかっていて「ジェンダーの呪いに殺されたんだな」と思いました。「女の価値は若さと美しさ」という呪いにかかったまま死んでしまったんだと。 大人になった私は「母は足を奪われたんだ」と気づきました。1950年生まれの母は「女に学は要らない」と言われて大学にも行けず、「早く嫁に行かなきゃ売れ残る」と言われて23歳で見合い結婚。 そうやって女は家に閉じ込められ、経済力を奪われ、自分で立つための足を奪われてきました。 一方の父は「俺は男だ！」というマッチョな人物で、家庭に無関心な仕事人間でした。父は会社の経営に失敗して自殺しました。「稼げないなんて男失格」という男らしさの呪いから絶望したのだろうし、「男は強くあるべき」という呪いから誰にも悩みを話せず、助けを求められなかったのだと思います。私はジェンダーの呪いに滅ぼされた一族の末裔として、バルス！と叫びたい。

また、私達は「少子化を女のせいにするな！」と怒ってます。産みたい人が安心して子供を産み育てられて、産まない人や産めない人も尊重される社会になるべきですよね？ そもそも働く女性が増えたから少子化になったんじゃない、日本の男性が家事育児をしないからです。 先進国の中で日本人男性は最も家事育児をしない、女性は男性の5.5倍以上の家事育児を負担してます。「男は仕事、女は家庭」という性別役割意識が強い国ほど少子化が進んでます。男性の家事育児時間が長い国ほど出生率が高い、先進国で子供が生まれてるのはジェンダー平等が進んでる国です。事実婚、同性同士、シングルマザーでも安心して子どもを産み育てられる国です。 また国民の幸福度ランキング上位はジェンダー平等が進んでる国です。マイノリティが差別されない社会は、全ての人の人権が尊重される社会、みんなが生きやすい社会なんですよ。 ジェンダー平等と聞くと男性は「権利を奪われる」と思いがちだけど、男性も奪われてた権利を取り戻すんだと気づいてほしい。 男性も長時間労働で社畜みたいに働くのはつらいですよね？子育てして子供の成長に立ち会う、家族や友人と過ごす時間、心身を大切にケアをするとか、男性も幸せになる権利を取り戻すんです。

2007年、安倍内閣の柳沢厚生労働大臣は「女性は子どもを産む機械、装置みたいなもの」と発言しました。この発言が原因で、自民党は2007年の統一地方選挙や参院選で大きく議席を減らす一因になったと分析されてます。 一方、参政党はあの第一声の後、男性の支持率が急上昇、女性は微減したと報道されました。「男女別で見ると男性が11・6%で、5・0ポイント増、女性は0・3ポイント減の4・8%」だそうです。 いまアメリカや韓国など世界中でミソジニーが爆発してます。差別が票になる時代。だから差別が選挙に利用される。「女性優遇、逆差別、女はずるい、俺たち男の権利が奪われている」そんな男性の怒りや不満の矛先をそらして、票集めに利用している。排外主義もまったく同じ。外国人は優遇なんてされてないのに。今、強い危機感を抱いてます。老若男女もそれ以外も「あらゆる差別を許さない」と連帯しましょう！ 神谷代表は選択的夫婦別姓や同性婚にも反対、「男女共同参画は間違っていた」「世界のジェンダー指数は日本は低いらしい、そんなこと知ったことか」と発言しました。

2000年代のジェンダーバックラッシュを思い出し、強い怒りと恐怖を感じます。あの時も右派のよるデマや妨害、ネガティブキャンペーンにより、男女共同参画やジェンダー政策や性教育が一気に後退しました。あのときフェミニストたちは脅迫や妨害にさらされ、殺害予告を受けても声を上げ

続けました。さらに遡ると、参政権運動をはじめ「女にも権利をよこせ」と戦ってきた多くの女性たちが逮捕され、投獄されました。そうやって先輩たちが死に物狂いでつないできたバトンを私たちは引き継がなきゃいけない。私の尊敬するフェミニストのRBG、アメリカ最高裁判事は言いました「セーターを一針ずつ編むようにしか社会は変わらない」私達は完成形のセーターはきっと見れないでしょう。でもみんなが一針ずつ編んでいけば、いつかは素晴らしいセーターが完成するはず。日々絶望しそうになりますが、みんなで連帯して希望をつないでいきましょう。

最後に「虎に翼」の寅ちゃんのセリフを紹介します。「おかしいと声を上げた人の声は決して消えない。その声がいつか誰かの力になる日がきっと来る。私の声だってみんなの声だって、決して消えることはないわ」私たちは黙らない。みんなで声をあげて、その声をつないでいきましょう。